

令和4年度 大学開放授業科目(後期)

2022年7月29日現在

No.	科目	対象学科	曜日	時間	教室	教員名	内容	教科書・参考書	備考
1	確率・統計	工学部 電気工学科	水	16:20~17:50	5108	井上 啓 (電気工学科 教授)	大学の理工学部では、確率・統計の果たす役割が極めて重要であり、特に、数学、物理、化学、生物、電子、通信などの分野では、確率・統計の基礎知識なしには何もできないと言っても過言ではない。この講義では、統計解析の基礎となる確率論を学習し、この理論をより所にして、入手可能な僅かなデータから全体についての知識を引き出す考え方と手法を学習する。	教科書:石村貞夫「だれにでもわかる数理統計」講談社 参考書:特になし	高校数学(数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B、数Ⅲ)の素養があることを前提として授業を進めていきます。
2	環境工学セミナー	工学部 応用化学科	木	9:00~10:30	5107	応用化学科教員 (連絡先:太田 雄大教授)	広い分野にわたる環境問題を、相互に関連の深い環境、エネルギー、資源、生物の問題を視野に入れ、持続可能な開発に留意しつつ理解し、バランスのよい解決の方向を見出せるよう、いろいろな環境課題について学びます。	教科書:特になし 参考書:特になし	
3	基礎化学	工学部 機械工学科	木	9:00~10:30	5109	浅野 比 (共通教育センター 准教授)	本講義では、焦点を絞って、化学のどの分野を学ぶ場合にもその基礎となり、知っておかなければならない化学の必須の知識を講義する。すなわち化学を専門としない学生であっても、最小限これだけの化学の知識は、身につけていて欲しいという事項を講義する。これだけの化学の基礎知識が確実に身に付けば、大抵の身の回りの化学現象は理解できるし、機械工学に必要な化学の知識も修得できる。また将来化学に興味を持って、もっと深く化学を勉強したいと思った時に、その土台として役立つはずである。できるだけ機械と関係付けた講義にしたい。	「教養の現代化学」多賀光彦・片岡正光・早野清治著(三共出版)	
4	物理学及び演習	工学部 電気工学科	月 火 水	月:10:40~12:10 火:9:00~10:30 水:10:40~12:10	211	岸本 功 (共通教育センター 准教授)	電磁気学は、前期の力学(物理学1及び演習)と並んで物理学の根本をなす1分野であり、理科系の学生あるいは企業の技術者にとって常識と言ってよい学問である。さらに、原子物理学では、光や電子の粒子性と波動性等について学習し、電子物性工学や半導体物性工学等の電気工学科の2年次以降の授業につながっていく。これらをよく理解した上で意欲的に取り組んでほしい。この授業では、①電場・磁場・電気力・磁気力・電磁誘導・電磁波等の電磁気学の基礎、②光の二重性・電子の二重性等の原子物理学について講義する。	基礎物理学第5版(原康夫・学術図書出版社)	【Ⅳ期授業期間】* 週3回開講
5	物理学及び演習	工学部 機械工学科	月 火 水	10:40~12:10 10:40~12:10 10:40~12:10	5103	笠置 映寛 (共通教育センター 准教授)	電磁気学は、力学と並んで物理学の根本をなす1分野であり、理科系の学生あるいは企業の技術者にとって必要不可欠な学問です。また、ミクロな世界をあつかう原子物理学は、身近な電磁気現象や物質の性質等を理解するために必要な学問です。この授業では、①電場・磁場・電気力・磁気力・電磁誘導・電磁波等の電磁気学の基礎、②光の二重性・電子の二重性等の原子物理学の基礎について講義します。	第5版「基礎物理学」原康夫著(学術図書)	授業期間: 第Ⅳ期 2022年11月21日(月)~2023年2月4日(土)

6	心理学	全学共通	金	14:40~16:10	212	福田 みのり (共通教育センター 准教授)	目に見えず実態のない対象である心をどのように捉えるのか、心理学の書物を読んでもても人の個別具体的な心理について書かれていることは少ない。心理学では人間の心の世界に科学的に迫っている。心理学の研究法について知り、人間の心がどのような仕組みを持ち、どのような働きをするのかについてこれまでの研究で明らかになっていることを知り、自分たちの日常体験との関連について考えてもらいたい。具体的には、感覚・知覚、記憶、学習、思考、知能、性格、社会、臨床といった心理学の諸領域についてとりあげる。	教科書: 特になし	
7	地域産業論	工学部 共通	木	13:00-14:30	5201	各学科等教員 (連絡先: 中村 洋 共通教育 センター 講師)	持続可能な社会づくりのための4本柱と言われる、環境・社会・経済・制度の側面から、山陽小野田市、山口県における地域づくりにおける産業の役割を学ぶ。本学の実務経験教員の講義も交え、地域とともに発展する産業のあり方を考える。	なし	
8	社会学	全学共通	金	13:00-14:30	210	中村 洋 (共通教育センター 講師)	社会学とは社会や集団、人間の行動を分析する学問である。ただし”厚い”分析を行うためには、データの収集方法も重要である。本科目ではデータを収集する社会調査の方法を学ぶとともに、公害や過疎化といった社会問題を題材にして社会学的な分析事例を学ぶ。	なし	
9	歴史学	工学部 共通	水	14:40~16:10	5101	土井 浩 (共通教育センター 教授)	百姓一揆が続発し、異国船が迫りくる内憂外患の幕末の日本。その危機の時代に立ち上がったのが、長州藩の若者たちであった。彼らは、高い志を持ち、他藩の同志たちと協働しつつ尊王攘夷・討幕運動に活躍する。そして、敵対した幕府側勢力との激闘のなかで夥しい犠牲者をだしながらも、明治維新の大業を成し遂げ、近代国家の建設に邁進した。本授業では、本学がよって立つ山口県の先人の偉業を学び、自身の生き方・考え方を考察させることを目的とする。授業方法は、資料とスライドを活用して実施する講義とともに、激動の時代に生きた幕末維新期の長州人の生き様や今日の時事問題などについて考え発表するアクティブ・ラーニングを実践する。	教員自作の資料を配付	
10	教養の系譜	工学部 共通	水	16:20~17:50	210	共通教育センター教員 (連絡先: 岸本 功 准教授)	本科目は一般教養についてのオムニバス形式の授業であり、2022年度は「空間」を統一テーマとする。文系・理系問わず様々な分野を専門とする各回の授業担当者が、様々な観点から空間に関連した個別テーマを論じ、授業の参加者(受講生および共通教育センターの教員)と共に討論をする。このような教養を身につけることにより、広い視野を持って各専門科目を学び、卒業研究へとつなげていくことができる。	教科書: 特になし 参考書: 特になし	

11	機能形態学1	薬学部 薬学科	水	10:40~12:10	721	嶋本 顕 (薬学科 教授)	<p>人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解し学ぶ科目が「解剖学・生理学」であり、薬学では「機能形態学」と呼ばれる科目で、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項を薬学カリキュラムの早期に修得することが重要です。機能形態学1では、基本的事項である遺伝、発生、器官系概論と、消化器系、肝臓・胆嚢・膵臓、神経系の構造と機能について学習します。その結果例えば、個体発生について概説し、肝臓・胆嚢・膵臓の形態、体内での位置や機能などについて、また脳の構造や中枢神経と末梢神経について説明できるようになります。</p>	<p>グラフィカル機能形態学 一葉が効く先のカラダへの 理解を求めて— 編著：東京薬科大学薬学 部教授 馬場広子 京都廣川書店</p>	
12	学術と地域文化2	薬学部 薬学科	火	13:00~14:30	711	薬学部教員 (連絡先：西本 新 教授)	<p>人文科学、社会科学および自然科学などを広く学び、物事を多角的にみる能力を養う。宗教、倫理、哲学、文学、外国語、芸術、文化人類学、社会学、政治、法律、経済、地理、歴史、科学史、宇宙、環境等あらゆる分野の一線で、また、地域で活躍する人の話を聞き、学び、考える。「人間・社会・科学を幅広く俯瞰できる能力」を養い、「地域の歴史・文化の理解」を深め、「国際性(異文化・国際問題の理解)」を涵養するための科目である。</p>	<p>教科書：特になし 参考書：特になし</p>	